

# 2003

*Space  
Development from  
Students'  
Point of  
View*

「学生の視点から考える宇宙開発」  
私たちは、多くの方々のご協力をいただき、  
今、宇宙開発の未来について  
考えるべき場所に立っています。  
出来合いのフレーズではなく、  
自分たちの言葉で宇宙開発を  
語りたいと思うのです。

宇宙開発フォーラム  
SPACE Development Forum  
2002.12 - 2003.12

# Annual Report

# 2003 年 年次報告書

学生の視点から考える  
これからの宇宙開発を目指して

Annual Report

## 団体概要

東京大学・慶応義塾大学を中心とする学部生・大学院生で構成されています。法律・経済などの文科系の学生と工学を中心とする理科系の学生がメンバーの大半を占めています。IAF 学生派遣プログラムや宇宙法模擬裁判の参加者、UNISEC に所属する学生、日本科学未来館の学生ボランティアなど幅広いグループからメンバーが参加しています。研究会活動とプロジェクト活動の2つを主な活動としています。

## 研究会活動

宇宙開発に関するビジネス・政策・法律などの社会科学的なテーマが中心です。学生にとどまらず、JAXA（旧 NASDA）の方々をはじめ多くの社会人の方々のご協力を得て研究会を行っています。宇宙開発の実務にかかわる社会人の方々や先生方をお招きしての講演会を行ったり、研究発表も行っています。

## プロジェクト活動

SDF の問題意識を社会に発信するとともに、宇宙開発に興味ある学生に宇宙開発に関わっていくためのきっかけを提供するために、さまざまなイベントやワークショップを行っています。また社会科学に限られない、宇宙開発に関わる学生ネットワークのハブとして、全国各地のさまざまな学生との交流の機会を提供しています。宇宙工学、芸術、医学、宇宙科学、社会科学など、多分野のバックボーンを持つ学生・社会人のコミュニティを形成することを目指しています。

## コンセプト

近年の厳しい環境の中で、今後の宇宙開発を担っていくために、理工系に偏らない多様なバックボーンを持つ人材が求められています。ビジネス・政策・法律などを含めた学際的なアプローチを学び、宇宙開発に興味を持っている学生に宇宙開発に関わっていく契機を提供することが宇宙開発フォーラム（SPACE Development Forum）の狙いです。

### 2003 年の主な活動

2002.12 ~ 2003.12

2002 年 12 月 ~ 2003 年 4 月

模擬裁判勉強会（全 8 回）

2003 年 5 月

宇宙法模擬裁判

2003 年 4 月 ~ 7 月

ビジネス研究会（全 6 回）  
宇宙開発政策研究会（全 5 回）  
宇宙法研究会（全 3 回）

2003 年 7 月

宇宙開発フォーラム

2003 年 10 月

世界宇宙飛行士会議学生ワークショップ

2003 年 12 月

UNISECWorkshop2003



# マンフレッド・ラックス宇宙法模擬裁判

Manfred Lachs Space Law Moot Court Competition 2003/5/5-10

## MFL 宇宙法模擬裁判とは？

マンフレッド・ラックス宇宙法模擬裁判は毎年、国際宇宙法学会（International Institute of Space Law）の主催で行われる宇宙法の国際大会です。現在、アジア太平洋、ヨーロッパ、アメリカの3つの地域から約30のロー・スクールが参加しています。参加する学生は2-3名のチームにわかれ、あらかじめ与えられているケース事例において、被告、原告に分かれて模擬裁判を行います。この模擬裁判へ参加する中で、国際宇宙法の重要な問題の討論や分析を学ぶことができますし、国際大会に参加して、弁論するという国際的なレベルで活躍できる法律家を目指すうえで、貴重な経験を積むことができます。模擬裁判の問題は、毎年、大会前年の8月か9月に発表され、3月～5月頃、各地域において、国際司法裁判所を模した法廷での予選ラウンドが開催されます。各地域予選の優勝チームが参加する決勝ラウンドは、毎年10月頃に、国際宇宙航行連盟（International Astronautical Federation）の主催する国際宇宙飛行会議（International Astronautical Congress）と宇宙法のIISL 専門家会議のプログラムとして、世界各国の専門家が注目する中で行われます。MFL 模擬裁判の決勝は、国際司法裁判所の現役判事3名が裁判官を務めます。



宇宙法模擬裁判に参加するにあたって、さまざまな研究会やシンポジウムに参加させていただきました。その一例をご紹介します。

宇宙開発利用制度研究会（SOLAPSU）2002年12月研究会

■日時 2002年12月7日（土）14:00～18:00

■主催 宇宙開発利用制度研究会

■場所 防衛庁防衛研究所 本館2階 特別会議室（大）

■プログラム

高屋 友里（ライデン大学国際航空宇宙法研究所修了、修士）

“GNSS for Military Uses or Peaceful Uses?”

金 選二（Kim, Sun Ihee）教授（大韓民国航空大学校航空宇宙法学科）「宇宙事故と損害賠償責任」

蘇 在先（So, Jae Seon）教授（慶熙大学校法科大学（民法））

## 日本チームの取り組み

SDFでは、マンフレッド・ラックス宇宙法模擬裁判出場チームを支援するための勉強会を合計7回開催しました。勉強会では、問題の基本的な論点の検討といったことから始まり、書面における主張の検討、弁論練習などを中心に行いました。勉強会の前半は、宇宙開発事業団のNASDAiを勉強会に使用させて頂き、宇宙開発事業団の方々から温かいご支援を賜りました。勉強会の後半では、防衛庁防衛研究所、東京大学、上智大学などで勉強会を重ねました。

2003年度大会アジア・太平洋予選には、日本から東京大学チームと上智大学チームの2チームが出場しました。日本チームの出場は今回で3回目となりましたが、またしても決勝ラウンドの進出はなりません。来期の日本チームのより一層の奮闘に期待いたします。

# 研究会活動

The Activities of SDF Tables 2003/4-2003/7

## 研究会活動

宇宙開発フォーラム（SDF）の開催に先立ち、「ビジネス」「宇宙開発政策」「宇宙法」の3つのテーマにそって合計14回の研究会が行われました。研究会は資料の読み込みや学生同士のディスカッションを中心とし、時には、実際に実務にかかわっていらっしゃる社会人の方々をお招きして行われました。研究会の内容は展示発表された他、それぞれのセッションの参考資料となりました。

## ビジネステーブル

全6回にわたる研究会では、現在の宇宙ビジネスの状況をマクロ的に分析した上で、IHI エアロスペースの山中様にインタビューを行い、最終回では「準天頂衛星システムを用いた新しいビジネスの可能性」について6時間にわたるグループワークを行いました。ディズニーランドなどの大型テーマパーク専用のヒトナビシステムや国際携帯電話を利用した海外旅行用ナビゲーションシステムなどが提案されました。7月のフォーラムでは宇宙利用産業の現状について概観し、今後の利用産業が教育・福祉、国土管理、交通管制など新しい用途に使われる可能性について発表しました。

### ■宇宙法研究会

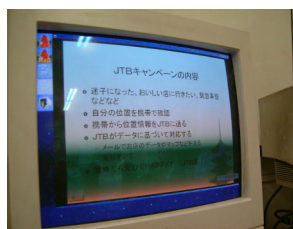
- 6月21日（土） スペースデブリ入門編
- 6月29日（日） スペースデブリと多国間条約
- 7月6日（日） スペースデブリの国際基金構想

### ■ビジネス研究会

- 4月13日（日） 人工衛星に関する基礎知識
- 4月27日（日） 人工衛星業界のマクロ分析
- 5月25日（日） ビジネスにおける企業戦略・競争戦略
- 6月7日（土） ビジネスの現場を知る  
ー IHI エアロスペース山中勉氏に聞くー
- 6月15日（日） ケース・スタディ入門編
- 6月22日（日） 人工衛星ビジネスのケース・スタディ

### ■宇宙開発政策研究会

- 5月18日（日） 日本宇宙開発政策の概要と政策分析入門
- 6月8日（日） 現在の日本の宇宙開発政策の課題は何か
- 6月15日（日） 日本の宇宙開発予算
- 6月28日（土） 宇宙開発の課題に対する対処について
- 7月5日（土） 日本の宇宙開発政策の姿を考える  
ー筑波大学鈴木先生をお迎えしてー



## 宇宙開発政策テーブル

現在の宇宙開発政策を総合科学技術会議や宇宙開発委員会、経団連の資料を中心に分析しました。また宇宙開発予算の推移や用途について整理し、宇宙開発予算が情報収集衛星・ISS 関連・H2A 関連の3つに集中的に投資されていると結論付けました。研究会は全5回に及び、現在の宇宙開発政策は、教育という視点が弱く、人材育成に不安があると分析した他、筑波大学の鈴木先生にインタビューを行いました。

## 宇宙法テーブル

研究会は全3回でスペースデブリの法規制について扱いました。宇宙5条約をはじめとする現状の宇宙開発についての法規制を概観するとともに、スペースデブリ問題について、各国の利害を念頭に置きつつ、いかにルール作りをしていくべきかを議論しました。7月のフォーラムでは宇宙法の世界を広く紹介することを目的に、宇宙法模擬裁判について発表しました。

# 宇宙開発フォーラム

SPACE Development Forum 2003/7/26-28

## コンセプト

宇宙開発フォーラムはワークショップ・パネルディスカッション・展示発表などのプログラムで7月26日～28日の3日間にわたって行われました。「学生の視点から考えるこれからの宇宙開発」というテーマのもと、9つのプログラムが行われ、会場となった日本科学未来館には150名を越える参加者が連日足を運びました。

開催にあたって、「社会科学的アプローチを学習・研究する契機を作る」「宇宙開発に関わる人々の相互交流・情報発信の場所を提供する」の2点を目標として掲げましたが、参加した学生の多くが、その後の宇宙飛行士会議学生ワークショップや学生同士の勉強会に参加しており、十分に刺激を与えることができました。イベントを通じて、多くの学生とつながりを持つことができ、そのネットワークは全国に広がっています。

## 企画報告

オープニングとして、狼先生より宇宙開発についての基本的な現状認識をご講演いただきました。この後のプログラムに参加する上でのバックボーンとなったと思います。また日本科学未来館の館長である毛利様にご挨拶をいただき、宇宙開発に参加していく意義をお話いただきました。

地球観測セミナー、宇宙医学セミナー、平和利用セミナーは、宇宙開発の最先端の状況を技術的な観点も含めて、専門家に語っていただくという趣旨で行われました。3つのセミナーとも短い時間の中で、驚くほど整理された内容をお話いただき、有意義な時間となりました。

ビジネス・宇宙開発政策・宇宙法の各セッションは、専門家の方からのご講演だけではなく、それを踏まえた参加者同士のグループワークを行い、実際に宇宙開発の課題について考えていただくことを目指しました。ビジネスセッションでは、東大阪のまいど衛星をとりあげ、参加者はグループでまいど衛星を使ったビジネスプランについて考えました。宇宙開発政策セッションでは、有人宇宙開発の是非について、文部科学省・外務省・経済産

## PROGRAM & LECTURERS

### 宇宙開発概論

狼 嘉彰 氏

(慶應義塾大学 理工学部システムデザイン工学科 教授、  
宇宙開発事業団 研究総監)

### 特別挨拶

毛利 衛 氏

(日本科学未来館館長、宇宙開発事業団 宇宙飛行士)

### 地球観測セミナー

浜崎 敬 氏

(宇宙開発事業団 衛星総合システム本部 温室効果ガス観測技術衛星プロジェクトチーム プロジェクトマネジャー)

### ビジネスセッション

青木 豊彦 氏

(株式会社アオキ代表取締役社長、東大阪宇宙開発協同組合理事長)

小林 千里 氏 (東大阪宇宙開発協同組合 統括マネジャー)

### 宇宙医学セミナー

中里 龍生 氏 (藤岡外科医院 院長)

### 平和利用セミナー

橋本 靖明 氏 (防衛庁防衛研究所 第1研究部第2研究室 主任研究官)

### 政策セッション

鈴木 一人 氏 (筑波大学 社会科学科・国際総合学類 専任講師)

### 宇宙法セッション

川本 千代司 氏 (宇宙開発事業団 国際部国際課 課長)

### パネルディスカッション

井口 雅一 氏 (文部科学省宇宙開発委員会 委員長)

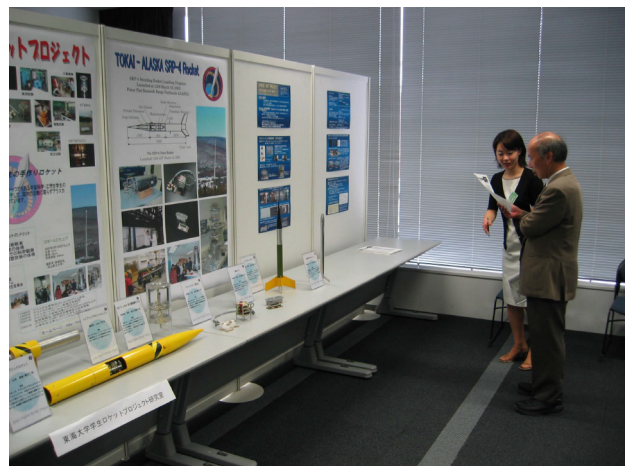
黒木 聖司 氏 (創価大学 工学部情報システム学科 教授)

安藤 恵美子 氏 (財団法人日本宇宙フォーラム 研究調査部)

業省などの省庁の立場に立って、政策評価を行いました。宇宙法セッションではスペースデブリ問題解決のために条約交渉をするという設定で、どのような枠組みが望ましいか議論しました。どのセッションでも参加者の満足度は非常に高く、4時間近くあったにもかかわらず、議論の時間が足りないという声が何度も聞かれました。

26日の夕方にはレセプションが行われ、学生・社会人を含め40名ほどが参加しました。普段、なかなか会うことのない、他分野の学生や社会人の方々と積極的に話し、議論することができたようです。26日に限らず、27日、28日もプログラム終了後、学生同士で食事を交えながら、遅くまで語りあう姿が見られ、学生同士のネットワークを形作ることができたと思います。

最後にこれまでの議論の総括として、宇宙開発委員会委員長の井口先生などをお招きして、パネルディスカッションを行いました。パネリストの方々は学生の質問や意見に丁寧にお答えくださり、多くの学生が今後の展望を見すえることができました。彼らの活動は今後の宇宙開発のさらなる発展につながっていくと感じています。



## 展示発表

宇宙開発に関して活動している方々が、ポスター展示やビデオ映像による活動の発表を行いました。会場に足を運んだ見学者の方々は活動の幅広さに目を見張っていたようです。東京大学や東海大学が展示した衛星やロケットのモデルは特に人気が高く、つい手にとって眺めようとするお様をスタッフがあわてて止めに走っていく光景がたびたび見られました。



## 展示発表に参加したグループ

- 宇宙開発事業団 (NASDA)
- ISU (国連宇宙大学)
- IAF (国際宇宙航行連盟)
- 東大阪宇宙開発協同組合 (SOHLA)
- 東海大学学生ロケットプロジェクト研究室
- 宇宙と芸術を考える学生会議 (SCSA)
- 東京大学工学部航空宇宙工学科中須賀研究室 学生グループ
- 東京工業大学理工学部松永研究室 学生グループ
- 宇宙市民リーグ SCiLe
- Space School SPlead
- 教育環境コーディネーター 一瀬 泰啓
- 宇宙開発フォーラム (SDF) ビジネステーブル
- 宇宙開発フォーラム (SDF) 宇宙開発政策テーブル
- 宇宙開発フォーラム (SDF) 宇宙法テーブル

## 企画概要

- 主催：宇宙開発フォーラム実行委員会 (SDF)
- 後援：宇宙開発事業団 (NASDA)
- 協力：日本科学未来館 (MeSci)  
日本宇宙フォーラム (JSF)  
東大阪宇宙開発協同組合 (SOHLA)
- 運営協力：  
東京大学国際法研究会、上智大学国際法研究会  
@ SPACE、宇宙市民リーグ SCiLe  
Space School SPlead  
学生シンクタンク WAAV

# 第 18 回世界宇宙飛行士会議学生ワークショップ

18th Planetary Congress Association of Space Explorers Tokyo 2003 Students Workshop 2003/10/16

## 世界宇宙飛行士会議とは

世界宇宙飛行士会議は、各国の宇宙飛行士で組織する「宇宙探検家協会 (Association of Space Explorers = ASE)」が、世界各地で毎年開催している国際会議です。日本初の開催となる今回は、毛利衛実行委員長のもと、「宇宙と教育 - 全人類の文化に向けて -」をメインテーマに、10月12日(日)から17日(金)まで開催されました。

## 学生ワークショップとは

“より身近な宇宙へ”をモットーに、全国各地の開催会場において宇宙飛行士と一般の方々の双方向の交流を目的としたプログラム (コミュニティデー) の1つです。宇宙飛行士という宇宙開発の専門家を迎え、学生とのディスカッションを通じて、宇宙開発について既存の考え方にとらわれない新しい考え方を模索し、「人類と宇宙」の関わりについて考えました。北海道、名古屋、大阪など、全国から集まった70名の学生と8人の宇宙飛行士が5時間にわたって、議論しました。

### ご参加いただいた宇宙飛行士の方々

- 「宇宙における精神変化と文化芸術」グループ  
アナトリ・ベレゾボイ (Anatoli N. Berezovoi) ロシア



ミロスラフ・ヘルマツェフスキー

(Miroslaw Hermaszewski) ポーランド

- 「宇宙開発と国際政治 ~過去・現在・未来~」グループ  
ウラジミル・シャタロフ (Vladimir A. Shatalov) ロシア  
モハメド・ファリス (Mohammed A. Faris) シリア
- 「有人? 無人? ロボット技術から有人活動の意義を問い直す」グループ  
アレクサンドル・セレブロフ (Aleksandr A. Serebrov) ロシア
- 「宇宙開発の商業利用」グループ  
クロード・ニコリエ (Claude Nicollier) スイス
- 「宇宙開発における青少年教育について」グループ  
ビクトル・ゴルバトコ (Viktor V. Gorbatko) ロシア  
ジュクテルデミット・グラグチャ (Jugderdemidyn Gurragchaa) モンゴル

## プログラム

10:30 ~ 12:20

プレゼンテーション

12:20 ~ 13:30

ランチ

13:30 ~ 15:15

グループディスカッション

10.16.2003,

学生が各サブテーマに関連したプレゼンテーションを行いました。各宇宙飛行士の方には、これにコメントする形で担当のサブテーマについて、自身の経歴をあわせて、スピーチしていただきました。

担当サブテーマごとに、学生と宇宙飛行士とが同じテーブルで昼食を食べ、お互いのコミュニケーションをはかりました。宇宙飛行士への身近な疑問など会話が途絶えることはなかったようです。

サブテーマごとにわかれ、学生と宇宙飛行士でディスカッションを行いました。終了後、各テーマで議論の成果について発表し、総括として、宇宙飛行士のベロゾボイ氏がスピーチを行いました。

# UNISEC Workshop 2003

The Workshop 2003 in Hokkaido presented by the University Space Engineering Consortium 2003/12/13-14

## UNISEC Workshop 2003 とは

UNISEC (大学宇宙工学コンソーシアム) は、大学・高専の学生による、手作り衛星・ロケットをはじめとする実践的な宇宙工学活動を支援するために設立された NPO 法人です。ミッションの1つとしてさまざまな宇宙開発に対する試みをバックアップするというアウトリーチも含まれており、2003年12月に SDF も正式加盟いたしました。

今回のワークショップでは各大学の開発プロジェクトの紹介と技術の情報交流を中心に、衛星・ロケット技術に関する講義等が行われた他、宇宙活動を行っていく上で障害となる行政上や法律上の課題など、技術面以外の課題についても幅広く情報や意見の交換が行われました。

SDF のメンバーは「第 54 回 IAF 大会派遣プログラム参加報告」「小型衛星の市場におけるインパクト」の2つの発表を行った他、「小型衛星に関する政策ケーススタディ」をコーディネートし、UNISEC の学生によるディスカッションにも参加しました。社会科学系の研究活動を行っている私たちにとって、工学系の諸先生方、学生たちと意見を交換する場を持つことができたことは大きな意味がありました。



## SPllead & SDF 特別勉強会

村木 祐介 (北海道大学大学院工学研究科)、筑紫 正宏 (東京大学法学部)

小型衛星開発をサポートする政策プランについて、実際に省庁の立場にたって政策立案を行うグループワークを行いました。前半は、宇宙開発予算や政策決定について簡単なプレゼンテーションを行い、後半は文部科学省・経済産業省・外務省・総務省を模擬したグループにわかれ、与えられたテーマに関するその省庁の回答をディスカッションの上、発表、質疑応答を行いました。

## 第 54 回 IAF 学生派遣プログラム報告

中村 優紀 (一橋大学法学部)、細居 洋介 (東京大学工学部)

2003年9月29日～10月3日にドイツ・ブレーメンで開催された第54回国際宇宙航行連盟 (IAF) 大会への派遣プログラムに参加した成果として、プログラムの報告と考察を行いました。具体的には、学生に対する宇宙教育の取り組みについて日本とヨーロッパの比較、IAF 派遣プログラムの意義、学生への教育効果について分析を行いました。



## 小型衛星の商業上のインパクト

福永 真己 (成蹊大学大学院経済学研究科)、筑紫 正宏 (東京大学法学部)、川島 弓奈 (日本大学理工学部)

小型衛星のユーザー層は一部の業界・用途に大きく偏っており、潜在的には有望と思われる市場が数多く残っています。発表ではエンドユーザーの重要性を強調し、一例として、広告業界における可能性をあげながら、小型衛星の市場に対するポテンシャルについて考えました。



# その他の活動

and other activities.....

## 講演会

### 「国際宇宙大学のデザインプロジェクトについて - 国際プロジェクトに求められる人材とは」

Lecturer: Vernon H. Singhroy 博士

2002/12/6

カナダ宇宙機関の Vern 博士をお迎えし、国際宇宙大学 (ISU) のデザインプロジェクトについてご講演いただきました。その後、参加者を交えて、日本の宇宙開発の今後や人材育成の難しさについてディスカッションを行いました。



## Starry Starry Project Act.1

2003/5/31

宇宙市民リーグ (SCiLe) の「Starry Starry Project Act.1」に参加し、プレゼンテーションを行いました。このプログラムは市民の「宇宙開発」への理解の増進と、「宇宙開発」を傍らで支える様々な活動を行っている方・グループ間の連携強化を通して、「人類、みんなの宇宙開発を考えよう!」というもので、的川先生・狼先生・中須賀先生をはじめ、宇宙開発に関心を持つ多くの社会人・学生が集まりました。



## 講演会

### 「生活支援工学（福祉）と宇宙開発」

Lecturer: 大鍋 寿一 教授 (新潟大学工学部)

2003/6/11

新潟大学の 大鍋先生をお迎えし、宇宙開発技術の福祉分野、医療分野へのスピノフの可能性についてご講演いただきました。NASA などの豊富な事例をご紹介いただきました。

\* (財) 未来工学研究所の主催する講演会に共催という形でお手伝いしました。

## スターメール研究会

Lecturer: 山中 勉 様 牧野 謙二 様 (株式会社 IHI エアロスペース)

2003/11/1

IHI エアロスペースの山中様と牧野様をお迎えして、同社が提供しているスターメールサービスについてのケーススタディを行いました。スターメールサービスを利用したボランティアプランや同サービスのプロモーション方法など、3つのチームに分かれた学生が5時間にわたり、議論を繰りひろげました。スターメールを発展途上国の宇宙教育に役立てる、あるいは卒業を前にした学生に対して、お祝いの言葉にスターメールを利用してもらうなどのアイデアが提案されました。

## ヒアリング調査協力

2003.12~2004.1

JAMSS (有人宇宙システム株式会社) による今後の有人宇宙開発に関するヒアリング調査として、アンケートに協力し、学生としての意見をまとめました。

# 2003 年を総括して

■■■ SPACE Development Forum 2002.12-2003.12

## SDF のビジョン、コアコンピテンシーとは

2002 年冬から活動を始めた SDF は多くの方々のご協力を得て、本当に多彩な活動を精力的に展開してきました。私たちが活動において、大切にしてきたことは以下の 3 つのポイントに整理できるように思います。

### 1) 社会により開かれた宇宙開発にむけて

宇宙開発をとりまく環境は大きく変化してきています。冷戦が終わり、限りある予算、人材の中で私たちは進んでいかねばなりません。専門家の方々が自分達の「できること」「やりたいこと」を求め続けるだけではなく、宇宙開発を支えてくれる社会に「求められること」「提供できること」を探り出し、積極的に行動していくことが必要だと考えています。

「すべての人々に開かれた宇宙開発」。これはスイス人宇宙飛行士のクロード・ニコリエ氏が私たちとのディスカッションの中で述べられていた言葉ですが、私たちはまさにこのような宇宙開発が日本で実現されるように努力したいと考えています。

### 2) 社会科学の立場から、宇宙工学、宇宙科学とのインテグレーション

では、日本にその要請に応えられる人材がどれほどいるのでしょうか？

宇宙開発への強い関心を持ち、理系・文系を問わず、広い視野を持つ人材が必要とされていますが、特にビジネス・政策・法律のバックボーンを持ち、宇宙開発を社会的な側面から支えていける人材は不足しています。私たちは、宇宙開発におけるこれら社会科学分野のアプローチを積極的に学び、スペシャリストとして日本の宇宙開発に貢献することを目指しています。

同時に、社会科学、宇宙工学、宇宙科学の知識を幅広く学び、現実の宇宙開発で起きているさまざまな問題に触れ、ソリューションについて考えていきたいと考えています。

### 3) 学生ネットワークのハブとして

このような目標を見据えて、学生の現状を考えると、その環境は厳しいといわざるを得ません。宇宙開発に興味を持っている学生に積極的に活動する契機を提供し、宇宙開発の将来を担う若者たちが互いを高めあっていける環境を整備することも私たちのミッションの 1 つです。

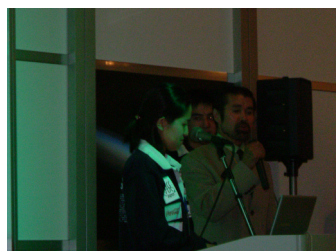
## SDF の 2003 年と今後

2002 年の冬にスタートした SDF は、宇宙開発フォーラムと宇宙飛行士会議学生



## SPACE Development Forum Executive Committee

筑紫 正宏 (東京大学法学部)  
田島 博樹 (東京大学法学部)  
石井 悠貴 (東京大学法学部)  
福永 真己  
(成蹊大学大学院経済学研究科)  
池澤 龍太 (慶応義塾大学法学部)  
大田 彩子 (早稲田大学法学部)  
奥田 千尋 (東京大学法学部)  
川島 弓奈 (日本大学理工学部)  
菊間 梓 (東京大学法学部)  
鈴木 康朗 (東京工業大学理学部)  
中村 優紀 (一橋大学法学部)  
高澤 桂 (早稲田大学政治経済学部)  
東尾 彩 (慶応義塾大学経済学部)  
福永 潤一郎  
(早稲田大学大学院理工学研究科)  
細居 洋介 (東京大学工学部)  
守 裕也 (慶応義塾大学理工学部)  
港 智史 (東京大学工学部)



ワークショップという2つの大きなイベントを経て、全国の学生とつながりを持ち、同時に多くの社会人の方々にご協力いただけるまでに成長しました。また、宇宙法模擬裁判をはじめとして、宇宙開発に関する学識やノウハウについても蓄積がなされてきています。初年度として、十分な成果をあげたと言えると思います。今後、SDFの更なる飛躍のために必要なことは、工学や理学といった理系分野とのインテグレーションをうまく進め、宇宙開発の現実と接していくことです。テキスト上ではなく、リアルな宇宙開発と接していく中で、多くを学ぶことができると同時に、学生として、貢献できることを探っていければと思います。

### 最後に

SDFは小さな学生のグループに過ぎません。ですが、その周りに多くのあたたかい方々が手をさしのべてくださっています。皆様の期待に十分に答えることができず、ご迷惑をかけることも多かったと思いますが、同時に、なんとか一歩踏み出すことができたとも考えています。

今後の宇宙開発がより良いものになるようにと、私たちの活動にご協力いただいた皆様方に、あつくお礼申し上げますとともに、今後のさらなるご協力をお願いしたいと思います。ありがとうございました。

## 宇宙開発フォーラム 2003 年 年次報告書

### SDF Annual Report 2003

作成： 宇宙開発フォーラム (SDF)  
SPACE Development Forum

URL： <http://www.sdfec.org>

E-mail： [info@sdfec.org](mailto:info@sdfec.org)

提携： Space School SPlead  
SCiLe (宇宙市民リーグ)  
東京大学国際法研究会  
学生シンクタンク WAAV  
Pull (きぼう宇宙討論会)

代表： 筑紫 正宏

発行： 2004年2月13日